

館報 はた



スージーちゃん スイカワくん

令和3年11月1日現在

世帯数	6,255戸
人口	15,470人
男	7,489人
女	7,981人

波田中 剣士 大奮闘!!

今年度中学生の中信地区剣道大会新人戦が、十月二十三日と二十四日に波田中学校体育館で開催されました。中信地区の中学生達が波田に集い、爽やかで熱い戦いが行われた様子をご紹介致します。

二十三日は男女個人戦が行われました。男子は百十九名、女子は八十一名の剣士が参加しました。波田中学校の剣道部員は、野村あおい選手・高田陽彩選手・寺田紗葉選手・高村彩音選手が個人として、団体戦は女子が県大会へ進出することとなりました。県大会は来年二月に松代で開催が予定されています。

二十四日は男女団体戦が行われました。男子は十七校、女子は十二校が参加しました。波田中学校剣道部は、男子は惜しくもベスト8で敗退し県大会の出場を逃しました。女子は見事ベスト4に入り、県大会進出を決めました。



今回記事を担当しました私藤村は、「波田剣友会」という波田中学校剣道部員も何人か共に稽古をしています。今回中体連様から依頼を受け、当日審判員を務めました。その際に波田中学校剣道部員二名から大会の感想をもらいましたのでご紹介します。

「スマイス誠選手(二年生)にお聞きします。大会は如何でしたか?」「個人戦は勝ちたいという気負いやプレッシャーを感じて思ったように戦えず、県大会出場を逃して悔しかったです。団体戦は準々決勝で先鋒から大将までで決着がつかず代表選になり、自分が代表として出場しましたが、勝つて県大会出場を決めることができず残念でした。」「今後に向けた意気込みを教えてください。」「もつと稽古を積み重ねて、来年こ

そは県大会に進めるよう頑張ります。」

「野村あおい選手(二年生)にお聞きします。大会は如何でしたか?」「個人戦は自分の力を最大限出せるよう頑張りましたが、もつと勝ち進めたら良かったと思っています。団体戦は皆と力を合わせて気持ちの一つにする事が必要と思つて頑張りました。準決勝で代表選になり、自分が代表として出場しました。思うような結果になりませんでした。最後まで頑張りました。それでも県大会へ出場することができて良かったです。」「県大会への意気込みを教えてください。」「今まで以上に稽古を積み、最大限の結果が得られるよう頑張ります。」

コロナ禍は落ち着きつつありますが、屋内で密になりやすい剣道競技は現在も様々な制限があります。この状況でも波田中剣道部の皆さんをはじめ、剣道に携わる全ての剣士が、コロナ禍に負けず、日々研鑽を重ねてもらいたいと切に願っております。



25区ボランティア

ひなたぼっこ

今は昔、もう二十一年前になります。町長さんをはじめ、福祉の方々、地域の皆様にご協力いただき、二十五区ふれあいひろば「ひなたぼっこ」を開くことができました。

私たちは、ご近所に住んでいても中々顔を合わせる機会がありません。そんな皆様方とご一緒に気軽にお茶を飲んだり、お喋りをして遊んだり、楽しいひとときを過ごし、絆を深めていきたい。そんな熱い思いでこの会をつくりました。当初、オープンしたばかりの竜島温泉に出掛けたり、健康のこと、また、子ども達との交流等の企画もワクワクしながら考えたことが今は懐かしい。思い出をたどれば、脳トレの一環として紙芝居「三匹のこぶた」を皆さんで台本を書き、絵に色を塗り作成し、そのできばえに感動して、地区のデイサービスセンターへ出掛けて実演し、とても喜ばれました。一人一人が主役になったのはとても良かった経験です。七

夕飾りを作ったり、折り紙で紫陽花の花を作り、町内公民館に飾ったりもしました。区の育成部と一緒に子ども達との交流会を行い、歌や折り紙でコマや飛行機を作り遊びました。年齢の差を越えて教えたり教えられたり、とてもよい雰囲気でした。

また介護の状態にならないように、保健師さんから健康維持の知識をお伺いし、ダンベルを手作りしました。県歌「信濃の国」に合わせてダンベル体操を覚えていただきました。家庭でも毎日励もうと話し合いましたが、一人で続けることは難しいですね。



平成12年4月開設
手製の旗

なりになられた方もいます。世代交代が進んで参りましたが、絶やすことなく引き継いでほしいです。

時を忘れて土と遊ぶ



陶芸教室「アトリエ彩土」は、しだれ桜で有名な安養寺の近くにありま

三十年程前に教室が開かれ、ここから何人かの陶芸作家が生まれ、各所で作品が紹介されています。とはい

皆さん初めて土に触れるところから始まります。一通りのカリキュラムを終えた後(スルーする方も)、教えてくだ

ださる上條京子先生は一人一人の個性を大事にしてください。自由にと親しむことができます。



マメ知識「などなど、暮らしの知恵を共有する場にもなっております。

毎年3月と10月に「かんでんばばギャラリー」にて作品展が開かれ、この時を待って訪れてくださるファンの皆さんもおられ、励みになります。

先月末に開催された作陶展にも多数の方々が来場されてうれしかったです。

最近、男性陣も何人か仲間に加わり、作風に新たなエネルギーを受け刺激され、皆さん次回に向けて意欲に燃えて取り組んでおります。



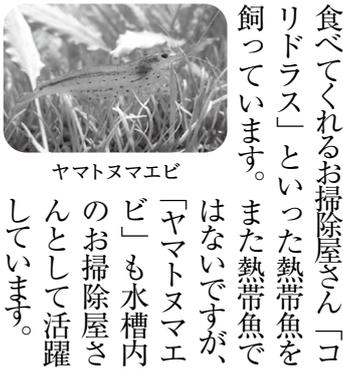
心のいやし 熱帯魚の飼育

今年も新型コロナウイルスの影響で自宅に居る事が多くなり、メダカや熱帯魚を飼いはじめた人もいたのではないのでしょうか。

私は知人宅で飼育していたグッピーという魚を見て一目ぼれし、数年前から熱帯魚を飼育しています。水槽は、30cm水槽から徐々に大きくして90cmまであり、現在は60cm水槽を主として飼育しています。

初めて飼育したのは、私が一目ぼれした「グッピー」です。色鮮やかで種類も多く、卵胎生で繁殖させたい人には最適な魚です。

そのあとは、青色ラインの鮮やかな「ネオンテトラ」、「カージナルテトラ」、模様と色のコントラストが綺麗な「グラミー」、ナマズの仲間で、水槽の底層に沈んだ餌の食べ残しを食べてくれるお掃除屋さん「コリドラス」といった熱帯魚を飼っています。



ヤマトヌマエビ 「ヤマトヌマエビ」も水槽内のお掃除屋さんとして活躍しています。



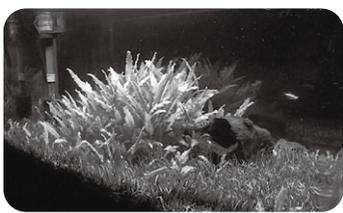
ラミーノーズテトラ その他にも私のお気に入り、透明感のある体で頭が鮮やかな赤色に染まっている「ラミーノーズテトラ」を飼育しています。

このラミーノーズは、「酔っ払いの鼻」という意味で名前がついたそうです。この赤い鼻先は体調に影響し、調子が良いと赤色で、優れないと赤色がくすみ薄くなるため、一目で体調の判断ができます。

また、外部からの刺激により気絶してしまう持ち主で、急激な水温変化など注意が必要です。私が経験したのは、シヨップで熱帯魚を購入後、移動中の車の振動で気絶した

のか、一匹が仰向けで動かない事がありました。自宅の水槽に入れると5分程でスイスイ泳ぎ始めたので、安心した事もありました。

今は水草にも挑戦しており、朝の目覚めに水草の中を泳ぐ熱帯魚を見て、日々癒されています。



波田、梓川の学校給食センターの老朽化が進み、建替え

統廃合が検討されています。平成30年度「市給食のあり方研究会」の提言書を基に検討、大規模センター方針が打ち出されましたが、先日市長が「ゼロベースで考え直す」としました。有志市民の「松本市の学校給食を何とかしたい会」は、市に学校給食の理念を明確にし、自校方式を目指しながら小規模(2千食以下)のセンターとし、有機無農薬農産物も視野に入れる等を求める陳情を行っています。

今年20区にできた「松本シュタイナー認定こども園ひなたほっこ」では、自然との共生などを理念とし、個を大切にしながら保育を行っており、(公財)自然農法センターの有機農産物を給食に取り入れています。保育園の給食は自校方式で規模も小さく、こういう取り組みが行いやすいです。

いま、全国各地で有機学校給食の動きが活発な中、市長が更に「質の高い給食」を目指していることから、市の学校給食にもこうした動きが起きることを期待してやみません。